



代表取締役社長
岩岡 正哲氏

岩岡印刷工業株式会社

<http://www.iwaoka.co.jp/>

本社：埼玉県入間郡三芳町北永井宮前 157-3

TEL.049-258-6111

営業部：東京都千代田区飯田橋 4-1-1 ISビル

TEL.03-3265-1323

創立：1975年(昭和50年)

代表取締役社長：岩岡 正哲

問い合わせアドレス：masaaki.iwaoka@iwaoka.co.jp



オフ輪と枚葉の双方で薄紙の即乾印刷に挑む

1975年に創業した岩岡印刷工業株式会社は、社名に「工業」を冠しているように「精緻な工業製品づくり」を目指して、オフ輪分野で事業を拡大してきた。一部の製造工程にとどまらず製品全体を品質保証できる体制づくりの一環として、B1サイズ5色印刷機 RMGT 1050ST-5を導入した。創業時からオフ輪のUV乾燥に取り組み、進取気鋭の精神に富む同社は、枚葉機においても当然のようにLED-UV即乾を選んだ。将来の展開を、代表取締役社長の岩岡正哲氏にお聞きした。

枚葉機でも極薄紙にチャレンジ

取材に訪れると、岩岡社長が満面の笑みとともに取り出したのが黄色い表紙のカレンダー(注:右頁上写真)だ。トレーシングペーパーのように裏面が透ける5リーフN18kgの極薄紙に、数字の一部を表面から、残りを裏面から印刷して文字を読ませる仕組みだ。紙の風合いが活かしたカレンダーは、第69回全国カレンダー展の第1部門*で中小企業団体中央会会長賞の栄誉を授かった。「RMGT製枚葉機設置を機に、自社製カレンダーの制作に初めて取り組んだ。メーカーが定めた印刷スペックを超えた極薄紙にチャレンジした。常に新しい技術で周囲を驚かしたい」(岩岡社長)。創業時を振り返っても、当時設置したA縦全判2色オフ輪で、早くもUV乾燥を手掛けるなど、同社は薄紙の即乾印刷に挑み続けている。

創業者である岩岡勤氏(代表取締役会長)は大学在学中ポ



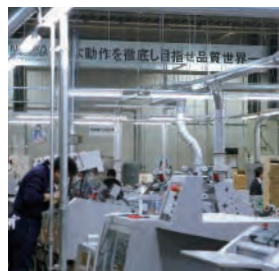
B1サイズ RMGT 1050ST-5(LED-UV乾燥装置、印刷品質検査装置搭載)



(写真左から)生産部印刷課 秋庭氏、同課 城元氏、岩岡社長、佐藤常務、木村工場長



ISO 9001、ISO 14001、ISO/IEC 27001(情報セキュリティ)、OHSAS 18001(労働安全衛生)、平成20年度彩の国工場(埼玉県知事指定)等の認定証



中継製本ラインの向こうの壁に掛かるスローガン「基本動作を徹底し目指せ品質日本一」

ラグビーに打ちこみ、今も競技場に足を運ぶ熱血漢だ。取材に訪れると、社内各所に体育会系らしい活気と心地よい緊張感が漂っている。「創業者のスピリッツとハートを、誰もが分かるように、標準化、体現化して経営することに力を注いでいる。社名に『工業』が入っているのには強い想いがある。感性で品質判断する傾向が色濃く残る印刷物も、大量に生産・流通する以上は、精緻な工業製品であるべきだ」と、岩岡社長は強く意識する。

工場内部に入って見上げると「基本動作を徹底し目指せ品質世界一」というスローガンが目飛び込む。工業製品を製造するメーカーとして、ISO 9001、ISO 14001にとどまらず、ISO/IEC 27001(情報セキュリティ)、OHSAS 18001(労働安全衛生)などマネジメントシステムの認定証が壁一面を埋めるほど、標準化にまい進する。このたび導入した枚葉印刷機で、Japan Color 標準印刷認証を取得した。その基準にオフ輪の品質管理を合わせて、ゆくゆくは

*一般企業カレンダー、印刷会社の自社用カレンダーで、企業が独自に制作し、直接配布するもの

WORKS

実績紹介



第69回全国カレンダー展受賞作を掲げる岩岡社長



5リーフN18 kgの極薄紙に両面から印刷して文字玉を形成



岩岡印刷工業が企画制作販売するPALEVEILブランドの紙製品

枚葉と輪転のカラーマネジメントを合わせていく方針だ。

製品全体の品質保証体制へ

当社は印刷工程にとどまらず、製品全体を品質保証できる体制づくりを進めている。その1つが製本工程であり、2009年に無線綴じラインを設置して以降、順次3ラインの中綴じ製本機を導入した。製本品質向上はもちろんのこと、乱丁防止のためバーコード管理システムを備えて品質保証力を高めた。2つめの施策として、「枚葉オフセット印刷の内製化構想はあったが、技術や品質管理等のハードルが高く、なかなか踏み切れなかった。枚葉機で進む省電力UV乾燥技術を見て、機が熟したと判断して、枚葉機導入を決定した」と岩岡社長は胸の内を明かす。

常務取締役の佐藤和雄氏は「導入決断後の動きは早かった。将来性や環境の面からLED-UV方式が最適と判断しB1サイズ5色機RMGT1050ST-5+LED-UVを選んだ。今まで外注していた表紙を枚葉機で、中面をオフ輪でまとめて社内ですべて印刷することで、仕掛在庫の削減、製品リードタイムの短縮につながっている。オフ輪と同じ運用ができるように、高回転で回してUV即乾し、さらに印刷品質検査装置をオプション採用した」。

枚葉機導入で品揃えを拡大

仕様選定にかかわった執行役員工場長の木村聡氏は「要求品質の厳しい鉄道会社のB全ポスターを内製化したかったので、1,050mm幅を選んだ。導入後はトラブルもなく順調に稼働している。立会いの仕事が多いが、大型ディスプレイを備えたプレスイン



三菱製A横全判オフ輪2台を連結させて、A4サイズ最大32枚綴じを印刷



55インチ大画面モニターを有するプレスインフォメーションディスプレイ

フォメーションディスプレイがお客様に好印象を与えている」。

枚葉機導入効果について岩岡社長は「一筋縄ではいかない。同じオフセットでも枚葉と輪転では予想していた以上に違いがあると感じている。

(写真左から)
常務取締役(本社統括)
佐藤和雄氏、
執行役員工場長
木村聡氏



RMGTさんにお力添えをいただき、よりお客様に喜ばれる製品をお届けしたい。また、枚葉機が導入されたことをご存じない方に当社の薄紙印刷技術を上げていきたい」。

印刷を超えた先を目指す

岩岡印刷工業の英文社名はIWAOKA CORPORATIONであり、「印刷」が入っていない。創業者の想いを強く引き継ぐ岩岡社長は「印刷業は生活必需品製造業である。水と空気と同じように生活になくてはならない産業で、すべての業界と取引しているのが強みだと思う。その延長線上で、薄紙のあるライフスタイル提案として、2年前にPALEVEIL(パールベール)という紙製品ブランドを立ち上げた。

最後に当社に対する期待を訊ねると、岩岡社長は「当社にとって機械や資材を納める会社はベンダーでなくパートナーとして大切に考えている。これからも安心できる機械を提供してもらえらるパートナーであり続けてほしい」と想いを語る。RMGT1050ST-5を始め、オフ輪、製本機など同社の全ての機械には、岩岡カラーである緑と青の二本ラインが映える。各所に体育会出身経営者らしさが垣間見える会社だ。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部東京営業三課 金子英昭

初めての枚葉機ご導入にあたり、付加価値を高めたいご要望を頂戴していたので、5色機をお薦めしました。順調に稼働していることを嬉しく思っています。枚葉機、輪転機ともお客様の期待に応えられるように、取り組んでいきます。

